◇◇◇

目次

「今月の海の生き物」スイジガイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1. 「海の生き物を守る会」の活動について・・・・・・・・・・・・・2
2. 「ウミウシ 切手コレクション」（8）立川賢一・・・・・・・・・・4
3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース・・・・・・・・・5
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報・・・・・・・7
5. 「きらめく動物たちの命と海　久保田信の白浜だより」（83）・・10
6. 「有明海と三陸の水辺から」（15）田中 克・・・・・・・・・・・・11
7. 事務局便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
8. 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

1.「海の生き物を守る会」の活動について

【活動予定】

●アカテガニの観察会　台風のため一部予定を変更

山口県上関町長島の田ノ浦で、今年も以下の要領でアカテガニの放仔観察会を行います。夏の大潮の夜、陸に棲んでいるアカテガニの雌が、大きなお腹に幼生を抱えて海へ降りてきて、子どもたちを海へ放します。その様子を観察しましょう。台風 11 号の接近で、昼間の田ノ浦での海水浴と観察会は中止します。

日時：7 月 18 日（土）19:00～19 日（日）9:00
場所：上関町田ノ浦海岸（上関原発予定地）
費用：大人 2,500 円前後、子供 1,000 円前後（宿泊費・食費ほか）
指導：向井宏（海の生き物を守る会代表）主催：上関の自然を守る会・海の生き物を守る会
申し込み締め切りは過ぎています。

●保全すべき砂浜を推薦してください

海の生き物を守る会では、砂浜海岸生物調査の一環として、全国の砂浜でぜひ保全すべきだと思われる砂浜を募集しています。ぜひご推薦ください。今年度末までに「ベスト 30」を決定し、そのリストを公表して、今後の保全活動に貢献したいと思いますので、ぜひ推薦をよろしくお願いいたします。推薦にあたっては、その砂浜の数枚の写真とその他、生物情報、自然度などについてもお知らせください。★当会事務局（P14）宛にご応募ください。

●10 月 31 日（土）神奈川県天神島で研修会を開催

海の生き物を守る会では、7 月に続いて 10 月にも砂浜海岸生物調査の研修会を行います。この研修会は日本自然保護協会との共催で行います。詳細は、後日お知らせします。

日時：10 月 31 日（土）10:00～15:00
場所：横須賀市自然・人文博物館　天神崎臨海自然教育園　天神島ビジターセンター
（横須賀市佐島 3-7-3）　JR 横須賀線「逗子」駅、京急線「新逗子」駅から京急バス
系統番号 逗 7 または逗 71「佐島マリーナ入口」行き　終点下車、徒歩 5 分

【活動報告】

●新潟県柏崎市で砂浜調査研修会を行いました

海の生き物を守る会では、日本自然保護協会と共催で、7 月 11 日土曜日に、砂浜海岸生物調査の研修会を行いました。日本自然保護協会は、夏休み砂浜教室「海岸エコトーンを感じよう」と題してのイベントでしたが、夏休みが始まる前ということもあって、生徒たちの参加はありませんでした。新潟県自然観察指導員の会による後援を受けました。

調査した砂浜は、柏崎市の荒浜海岸。日本海の砂浜では、初めての研修会でした。参加者は、新潟県の自然観察指導員など、スタッフを含め 17 名でした。日本海側としては例外的な晴天に恵まれ、向井と大久保両講師による説明を受けて、約 1 時間、砂浜を歩き、砂浜植物を見て回りました。打ち上げの貝類は種数は少なく、少々期待外れでしたが、後背植物帯では、最高 20 種類の海浜植物を観察できました。その他、非常に微小な海岸性のハンミョウが採集されるなど、興味深い採集もできました。

砂浜海岸生物調査の研修会の参加者（新潟県柏崎市荒浜海岸にて）

思っていること 言いたいこと

『うみひるも』にご投稿ください♪投稿用アドレス hirumo@live.jp

投稿用フォーム（うみひるも編集部宛）
https://www.secure-cloud.jp/sf/1415980618OyEOasMf

2. ウミウシ 切手コレクション（8） 立川賢一

5. 裸鰓目（NUDIBRANCHIA）

5－1. ドーリス亜目（DORIDINA）

5－1－1. イロウミウシ科（CHROMODORIDIDAE）

Chromodoris trimorginata

Chromodoris sp.

Chromodoris westraliensis

Chromodoris willani
ミゾレウミウシ

Chromodoris lochi
ミスジアオイロウミウシ

Chromodoris lochi
ミスジアオイロウミウシ

Chromodoris lochi
ミスジアオイロウミウシ

Chromodoris quadricolor

Chromodoris quadricolor

Chromodoris quadricolor

3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【東北】

●未成魚クロマグロ漁獲過剰　青森県が警報

30kg 未満の小型（未成魚）クロマグロの資源管理を目的とする漁獲上限に、青森県の太平洋側および日本海側のどちらも今年既に上限枠に近づいてしまったため、青森県は、「警報」にあたる定置網漁のマグロ「操業自粛要請」を出した。太平洋側では関係 25 漁協の来年 6 月までの漁獲上限値（42 トン）の 95%を超える漁獲実績があり、このままでは上限値を超える可能性が非常に高いと判断された。一方、日本海側では、来年 3 月までの漁獲上限値（216.5 トン）の 80%を超える漁獲実績が今年 6 月末に達成されている。こちらもこのままではまもなく上限値を超えるため、青森県では「警報」を出し、漁獲抑制を呼びかけた。しかし、漁期が始まったばかりの延縄や一本釣り漁師らは、憤りを表している。

●オサガメが漂着　秋田の海岸

レザーバックと言われ、近年きわめて減少し絶滅が危惧されているもっとも大型のウミガメであるオサガメの死体が、秋田県男鹿市宮沢海水浴場に漂着し、発見された。見つかったオサガメは、体長 1.6m、幅 60cm の大型の個体で、発見されたときにはすでに頭部など身体の一部がなくなっていた。

【中部】

●アカウミガメの産卵　今年は非常に少ない

昨年、多くのアカウミガメが上陸産卵した本州の海岸だが、今年は例年になく上陸産卵が少なく、心配する声が上がっている。アカウミガメの産卵シーズンは今ほぼ最盛期にあたっているが、愛知県豊橋市の表浜海岸では、これまでの上陸産卵がわずか 3 回にとどまっている。昨年は、この季節までに 17 カ所の産卵が見られたことに比べるときわめて少ない。豊橋市によると、例年 25℃にもなる海水温が今年はまだ 19℃前後なので、低水温が理由かもしれないとのこと。「今後、水温が上がれば増える可能性もある」と期待しているが、水温と産卵回数の間に関係があるかどうかは学問的には未確認のようである。日本ウミガメ協議会によると、今年は宮崎や屋久島などでもアカウミガメの上陸産卵が例年の半分以下で、全国的な傾向のようだ。

【中国】

●希少種「ハマハナヤスリ」を 24 年ぶり再発見　鳥取砂丘

鳥取県では、「鳥取砂丘再生会議」の席で、鳥取県の絶滅危惧植物「ハマハナヤスリ」が、鳥取砂丘で 24 年ぶりに再発見されたと発表した。「ハマハナヤスリ」は、小型のシダ植物の一種で、海岸の砂浜に生育する希少な植物である。海岸を清掃していた職員が発見した。100 個体以上の存在が確認され、県は保護のための対策をとることになった。

●境港で有毒のヒョウモンダコを確認　注意を喚起

鳥取県境港市中野町の中野港の消波ブロックで、熱帯性のヒョウモンダコ 1 匹が捕獲された。ヒョウ

モンダコは長さ 10cm くらいの小型のタコだが、猛毒をもつことで知られている。近年の温暖化に伴い、熱帯性の魚類などが北上していることが話題になっているが、鳥取県でも 2006 年以来 2 度目のヒョウモンダコの発見で、県の水産試験場では、「小型でかわいいタコなので（触りたくなるかもしれないが猛毒があるため)、海水浴場などで見つけても触らないように」と一般の人にも注意を呼びかけている。

●尾道の干潟を「干潟改良工事」　アサリ不漁で

広島県尾道市の干潟「山波ノ洲」では、アサリの不漁が続き、昨年 4 月から初めて 1 年間のアサリ禁漁が実施されたが、今年の調査でも資源回復の兆しがなかったため、松永湾水産振興協議会が、今年大型重機や耕耘機を 10 台以上投入して、大規模な干潟「改良工事」を行うことを決めた。「改良工事」とは、干潟の全面を耕耘し、生育環境の再生を行うということらしい。1 年の禁漁で資源の回復が見られないというだけで、耕耘工事がもたらす結果もはっきりしないまま、工事を行うという拙速な決定にも驚くが、干潟がアサリの養殖場としか考えていないことにも驚く。干潟の多面的な機能をもっと理解し、干潟の機能が損なわれているなら、どのような対応を考えれば良いか、議論が必要である。単にアサリの養殖場・生産工場としか干潟をとらえていないのは、海岸の管理を進める上でも問題が多い。

【四国】

●宇和海の赤潮被害が 1 億 3000 万円に　貝類も被害

愛媛県宇和島市の宇和海で今年 6 月以降、有毒プランクトン「カレニア・ミキモトイ」による赤潮が連続的に発生し、漁業被害が出ているが、7 月上旬の赤潮で、あらたに養殖しているトラフグなどの魚類約 3 万 500 匹、アコヤガイなど約 6000 個が死亡した。6 月以降の被害額は合計 1 億 3000 万円になった。

【九州】

●ゴマフアザラシが種子島に出現

鹿児島県種子島の南種子町島間港に、ゴマフアザラシ 1 頭が姿を見せ、消波ブロックの上などでひなたぼっこをしている姿が見られている。身体の大きさからゴマフアザラシの子供とみられる。ゴマフアザラシは、冬期にオホーツク海などから流氷と共に南下し、北海道周辺の流氷上や海岸で見られることが多いが、夏期に南西諸島に現れるのは非常に珍しい。おそらく昨年の冬に日本近海で生まれた 1 歳のゴマフアザラシとみられるが、北の海に帰るのに失敗して南西諸島に迷い込んだのではないかと思われる。地元の人は、珍客に驚きながらも、歓迎している。

【沖縄】

●署名が 1 万名を突破　辺野古埋め立て土砂搬出反対

沖縄県辺野古沖を埋め立てて米軍基地を建設しようという防衛省の政策に反対し、西日本からの埋め立て用土砂の搬出に反対する全国連絡協議会が取り組んでいる署名運動は、1 カ月余りのうちに 1 万通を超える署名が集まった。とりまとめ団体の環瀬戸内海会議と自然と文化を守る奄美会議では、これまでの署名を一次とりまとめとして、安倍内閣や衆参両院議長へ提出する。また、引き続き署名を集めているので、ぜひ反対署名をお寄せください。

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

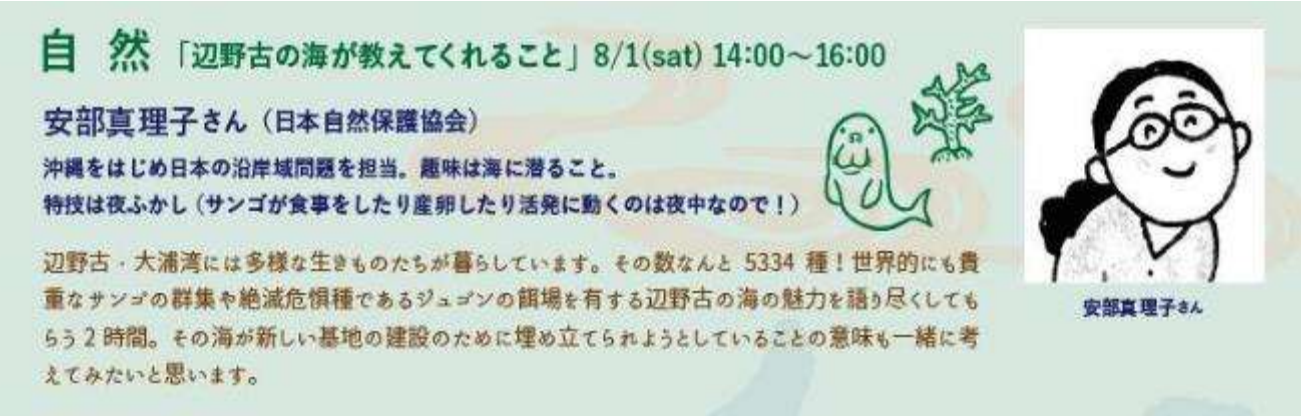
◆森は海の恋人「夏合宿」

日時：8 月 6 日（木）～8 月 9 日（日）3 泊 4 日
対象学年：小学校 4 年生～中学校 3 年生
定員：15 名
参加費：1 名 5000 円（食事代、保険料等）
★申し込み：電話、はがき、FAX、e-mail のいずれかの方法で、下記の申し込み先へ参加希望者の①学校名 ②学年 ③年齢 ④氏名 ⑤性別 ⑥連絡先（住所及び電話番号）をお知らせください。参加希望者が多い場合には、抽選となります。抽選結果は 7 月 25 日頃までに郵送いたします。7 月 22 日（水）必着。
申し込み先：NPO 法人森は海の恋人事務局
〒988-0582 宮城県気仙沼市唐桑町東舞根 212
電話 0226-31-2751　FAX 0226-31-2770
e-mail：info@mori-umi.org

【関東】

◆“琉球港”琉球トーク「自然」
辺野古の海が教えてくれること

辺野古・大浦湾は生物多様性豊かな海域です。世界的にも貴重なサンゴの群集や絶滅危惧種のジュゴンの餌場があります。辺野古の海の魅力を安部真理子さんが語り尽くします。
日時：2015 年 8 月 1 日（土）14:00～16:00
場所：Hako Gallery（東京都渋谷区西原 3 丁目 3-1-4）電話 03-5453-5321
★トークは予約優先です。参加を希望される方は、mtt.hako@gmail.com　までお知らせください。



【中部】

◆第３回海の環境を学ぶ会　～親子安全スノーケリングの会

　亀の子隊＊では、渥美（愛知県田原市）の豊かな海のすばらしさを感じようと、海に関わるさまざまな体験的な活動をしています。スノーケリングをしながら伊良湖の海を覗いてみませんか？　海の中を泳ぐ魚たちに会えるかもしれません。青い体のソラスズメダイ、黄色い体のチョウチョウウオなどたくさんの種類の魚たちをみることができました。さて今年はどんな生き物に出会えるでしょうか？　鎌倉の海でインストラクターとして活躍している方を講師にお呼びする予定です。ぜひ参加してください。

日時：2015 年 7 月 25 日（土）9:00～14:00 ころ（受付 8:45～）

場所：西の浜　海浜の森公園を出たところの海（休暇村伊良湖の近く）

方法：スノーケリングの初歩を学ぶということで、ライフジャケットを着用し、海面に浮かんだ状態で行います。基本的に足ひれ（フィン）は着けません（道具･ライフジャケットはサークルで用意します)。

持ち物・服装：水着（あればウェットスーツ）・Ｔシャツ（日焼け防止）・タオル・着替え・着替え用バスタオル（更衣室はありません）･帽子（必要なら）・マリンシューズ

※午後も参加する場合はお昼を各自用意してください。

※暑いので、途中水分補給ができるように各自飲み物も用意してください

参加資格：小学校１年生以上、健康であること

参加費：（スノーケリングを体験する場合の講師料･用具･保険料等として）

　　亀の子隊関係：中学生以上 800 円、小学生以下 600 円

　　一般：中学生以上 1500 円、小学生以下 1000 円

募集人員：体験者 30 名程度（参観者は別）

※親子で参加してください。子どもさんだけが体験するということも OK ですが、保護者の方も参加者として必ず近くで見ていてください。

★申し込み：以下のことを記入し、申し込みしてください。7 月 18 日（土）締め切り。

参加者名・学年・学校名・連絡先電話番号・体験か参加か・体験の人は靴のサイズ

申込先：亀の子隊　FAX　0531-23-0581　E-mail yoshiharu@kamenoko.org

電話での申込みは受け付けていません。できたらメールでお願いします。携帯からのメールも OK です。

亀の子隊事務局　連絡先：携帯　090-9123-7983

【九州】

◆夏休み！ 中津ひがた生きもの観察会

- 子どもたちや保護者に、生き物にとって干潟がどんなに大切かを知っていただきます。
- 絶滅危惧種のカブトガニが生息している環境を守る重要性を知っていただきます。
- みんなで自然を大切にしないといけないということを認識していただきます。

日時：7 月 18 日（土）14:00～16:00　※少雨決行。雨天の場合は翌日同刻に順延します。

主催：水辺に遊ぶ会

場所：大分県中津市大新田
※大分県道 23 号、セブンイレブンさんの横から入る。JR 中津駅から車で約 7 分。車で入れます。多い場合は県道沿いのディスカウントショップさんの駐車場をご利用ください。
定員：150 名程度
対象：どなたでも参加できます。
小学生以下は保護者同伴でお願いします。
持ち物：帽子、タオル、長靴（スリッパは危険です）、濡れてもよい服装、着替え、雨具、水筒、生き物をいれるバケツ、スコップ
※熱中症対策を万全にお願いします。
※会場にはポータブルトイレを置きます。
※捕まえた生きものは持ち帰れません。
主催：水辺に遊ぶ会
参加費：中学生以上 200 円　小学生以下 100 円
★申し込み先：080-5248-7443
NPO 水辺に遊ぶ会（担当：足利）
締め切りは当日。

プチ PHOTO コーナー

海の生き物ではありませんが、四国の海辺で遭遇した巨大ミミズです。

雨上がりの室戸岬（高知県）の
林道の入り口に、何匹もいました。

少し青みがかっています。
通常のミミズとの違いは歴然。
（写っている靴も 25cm と大き目ですが、それをゆうに超えるビッグサイズ。）
驚きました！

2015 年 7 月 14 日　瀬戸内千代撮影

5. きらめく動物たちの命と海
【久保田信の白浜だより(その83)】

白浜町北浜へココヤシが漂着

「名も知らぬ遠き島より流れ寄るヤシの実一つ」の抒情歌は、著書『海上の道』でも知られる柳田國男が、学生時代に伊良湖岬で目撃したことを島崎藤村に話したことによるらしい。和歌山県の白浜半島の先端にある京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”にも、一年に数個程のヤシの実が流れ寄ることがある。北浜にはこの他に、アダン、イルカンダ、オオバヒルギ、ゴバンノアシ、サガリバナ、テリハボク、ニリスホウガンヒルギ、ホウガンヒルギ、ミフクラギ、モダマ、モモタマナなどのさまざまな熱帯系植物の散布体も漂着している。黒潮の恩恵そのものである。

今回、“北浜”に、2015 年 7 月 6 日、ココヤシが 1 個、久々に流れ着いた。それは全く傷んでいなくて、外果皮もかなり綺麗な方だった。その長さと幅はともに 22cm で、手で持ち上げると重かった。美味しいココナッツミルクがきっといっぱい詰まっているに違いない。でも、酸っぱくなっているかもしれない？

折からの 3 個の台風が、はるか南の海上に発生しており、“北浜”の海はこのところ毎日荒れている。これらの台風のせいで漂着が推進されたのかもしれないが、今回のココヤシは、東南アジアから少なくとも 3000km も旅して流れてきたものと推察される。これまでに“北浜”に漂着したココヤシには、長細い形の変わり種もあったが、今回のものは普通の形だった。

ミンダナオ島でのジュゴン調査の折にふるまってもらった新鮮なココヤシが懐かしい。

図. 和歌山県に所在する京都大学瀬戸臨海実験所”北浜”にごく最近漂着したココヤシ

6. 有明海と三陸の水辺から(15)　田中　克

シーカヤックで有明海の水辺を巡る(2)

海遍路有明海の目的の一つは、瀕死の海に至らしめたとされる諫早湾潮受け堤防を海から間近に眺め、その意味を体感することにありました。5 月 21 日朝、佐賀県大浦港を出発した私たちはすぐに長崎県に入り、多良山系を見ながら小長井沖を南下すると、遠く右手前方に問題の水門が見え始めました。かつて“蘇れ有明海”を願った海上デモの漁船で埋め尽くされた海には、今ではほとんど漁船は見られず、この海の深刻さが伝わってきました。1997 年 4 月 14 日に落下された二百数十枚の鉄板による「ギロチン」の現場です（写真１）。大きな石組の巨大な壁が、もう一つの水門まで延々7km にわたって続きます。壁の向こう側は淡水の池となり、農業用水として利用される計画でしたが、循環を失くした水は著しく濁り、発ガン性物質を生みだす赤潮プランクトンが異常繁殖する事態に至っています。

写真１　シーカヤックのまえに立ちはだかる潮受け堤防と水門

調整池にはいくつかの川が流れ込み、必然的に水位は増します。そのため、堤防中央付近でポンプによって常時大量の汚水が排出されていました。出口周辺一帯の水は著しく濁り、異臭さえする状態でした。2500 億円という途方もない巨費を投じて防災を名目に設置された潮受け堤防は、環境に計り知れない影響を与えただけでなく、共に水に依拠する農業（者）と漁業（者）に深刻な対立を背負わせる事態を生みだし、地域社会を崩壊に至らしめた悲劇の象徴と言えます。漁師の中にも開門を巡って反対、賛成の意見が錯綜しています。しかし、多くの漁民は、潮受け堤防が設置されてから、浮子が沈まなくなった、ロープにぬめりがつきやすくなったと、流れが遅くなった現実を指摘します。

諫早湾周辺には、千メートル級の多良山系と雲仙岳がそびえ立っています。ここには大きな川はありませんが、これらの火山のふもとの町には、いたるところに湧水が出ています。それは、海の中にも直接出ているに違いありません。漁師は諫早湾を“泉水海”とよび、湧水の周辺では魚介類がよく採れることを知っていました。潮受け堤防は、この見えない山と海とのつながりをも断ち切ってしまったと言えます。有明海をほぼ一周して、改めて気付かされたのは、この海には自然海岸がほとんど残されていないことです。諫早湾潮受け堤防は極めてわかりやすい形であるがゆえに、“諸悪の根源”とされますが、実は沿岸域のほとんど全てをコンクリートで固めてしまったことが、有明海だけでなくこの国の沿岸環境と沿岸漁業を著しく劣化させてしまった原因であることが実感されました。そして、それは水辺に遊ぶ子供たちを“絶滅危惧種”にしてしまった原因でもあるのです。

2 週間の海遍路有明海を通じて、多くのことを学びました。再生の道が全く見えない有明海の前途に絶望しているわけにはいきません。荒尾干潟でのマジャク釣り体験、柳川のお堀でシーカヤックを楽しむ子供たち、鹿島の干潟で泥まみれを楽しむ小中学生、島原でのアマモ場再生に取り組む子供たちなど、続く世代を海に呼び戻す取り組みとそれを楽しむ屈託のない笑顔の子供たちに希望を見出しました。道は遠くても、ひと漕ぎひと漕ぎの積み重ねの上に必ず目的地に到達するシーカヤックのように、一歩の積み重ねです。

写真 2　有明海を見下ろす雲仙普賢岳の雄姿――山が海を育むことを実感する

7. 事務局便り

- 「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は、事務局までご連絡ください。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし、写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ご一緒に講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ口座「ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせください。
- うみひるもの表紙を飾る海の生き物の写真を募集しています。種名同定済みの写真ですと、大変助かります。海にお出かけの際には、カメラご持参で。そして、ベストショットが撮れたら、是非、うみひるも編集部までお送りください！
- お気軽にご投稿ください。　https://www.secure-cloud.jp/sf/1415980618OyEOasMf

8. 編集後記

久保田先生のエッセイの冒頭にある唱歌「椰子の実」が好きです。学校で習った頃には分からなかった歌詞の味わいが、大人になってから心にしみるようになりました。最近、うちの子どもが口ずさんでいて、今の小学校の音楽の教科書にも載っていることを知りました。海にまつわる永遠の名曲ですね。

そして、田中先生のエッセイでは、2013 年に見に行った「有明をわたる翼」を思い出しました。人間や渡り鳥の立場から、取材に基づいて有明海の現状を描いた演劇です。生態学者の飯島明子先生がプロデューサーですから、干潟の描写も正確です。何より胸に迫ったのは、強引な開発事業に翻弄されて、互いの仲を引き裂かれる地元の漁師さんたちの苦しみ。非常に小さな劇場で観たのですが、役者さんたちの演技も巧みで、それぞれの胸のうちに渦巻く怒りとやるせなさ、変わり果てた海を前に込み上げる感情、それらが音楽や色彩と一緒に体に飛び込んでくるような作品で、とても心を揺さぶられました。今年 12 月に福岡で再演が決まったようです。（ちよ）

今年は台風が多い。今週には台風 11 号が四国に上陸後、山口県を通過して日本海へ抜けそうだ。週末、山口県上関町で行う予定のアカテガニの観察会は、昼間の観察と海水浴を中止しました。夜のアカテガニの観察会は、今のところ実施する予定です。各地で行われる予定の観察会やさまざまなイベントも、対応に追われていることでしょう。台風は日本の夏の風物詩でもありますが、台風の襲来がありうるということを想定していないと、困ることになります。火山の噴火も各地で報告されています。火山の噴火も想定に入れて、原子力発電所の稼働を行うかどうかを判断しないといけないのは、日本という国では常識になりつつあります。もう二度と「想定外」で責任を逃げることは許されないでしょう。「戦争法案」を許すかどうかも、私たちはあとがない決断を迫られています。暑い/熱い夏が来ました。

次号「うみひるも」161 号は、8 月 16 日配信の予定です。皆様にとってよい夏になりますように。（宏）

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。年会費は個人 2,000 円、団体 20,000 円。匿名による参加も可能。会員は、各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行い、そのための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

メールマガジン『うみひるも』第 160 号
2015 年 7 月 16 日発行
発行「海の生き物を守る会」代表　向井 宏
編集：瀬戸内 千代
〒606-8413　京都市左京区浄土寺下馬場町 69 番地
TEL&FAX:075-741-6281　メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp
ホームページ URL：http://e-amco.com/
銀行口座：ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会
全銀システムで送金する場合は、068 店（ぜろろくはち店）0667302 ウミノイキモノヲマモルカイ